

9月5日のメッセージ

聖書：コリントの信徒への手紙一 1： 10－17

「心を一つに、思いを一つに」

「教会」とは、新約聖書のギリシャ語「エクレシア(呼び集められた者の群れ)」の訳語です。呼び集められた者が自然に一体となるならば、これほど簡単なことはありません。しかし、人間には個性があります。皆が同じ考え方を持っているわけではありません。同じ神に従っていますが、その歩みは千差万別です。その意味で、教会は集う者が自然に一体になれる場所ではなく、むしろ、一致するために不断の努力を必要とする場所と言えるでしょう。

神は私たちを呼び集め、交わりへと招かれます。教会に集うのは、強さを誇る人よりも、打ち砕かれた人の方が多いでしょう(「打ち砕かれた心の人々を癒し／その傷を包んでくださる。」詩編 147:3)。自分に自信が無い、神に愛されている確証を得られない、確信を抱けない今まで人は教会に集っています。

そして神は、力も誇るべきものも何一つ無い私たちと平和の契約を結ばれます(「わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。それは彼らとの永遠の契約となる。わたしは彼らの住居を定め、彼らを増し加える。わたしはまた、永遠に彼らの真ん中にわたしの聖所を置く。」エゼキエル書 37:26)。

その交わりの中に、私たちのただ中に神がいてくださるのです(「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」マタイによる福音書 18:20)。

礼拝を通して私たちは、「神が共におられる」ことを実感し、感謝します。神に押し出されて、また私たちは共に歩む道を求め続けます。その繰り返しの中で、私たちは一層、神の愛の豊かさを知り、神の思いを知っていくのです。

神は小さな者が傷つくことを喜ばれません(「そのように、これらの小さな者が一人でも減びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」マタイによる福音書 18:14)。

だから、教会における交わりは、強者が弱者を抑圧するものであってはなりません。「心を一つに」「思いを一つに」とは強制された考え方の統一ではありません(「さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心を一つにし思いを一つにして、固く結び合いなさい。」コリントの信徒への手紙一 1:10)。

神に愛された一人ひとりが互いに歩み寄りながら、支え合い、助け合う中で生まれてくるものでしょう。私たちは日々の交わりを通して、一致するプロセスを共に歩んでいくのです。そのような私たちの交わりを神は喜んでくださいます。迷いながら一所懸命、共に神に従う道を模索する私たちを常に祝福してくださっているのです。

